



2025年7月27～28日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で実施した噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。
QRコードからもアクセスできます→

- ・海面付近の水温は一部で25℃を超えました。暖流系水は湾口部まで接近しています。
- ・高水温・低塩分の夏季噴火湾表層水が発達しており，今後も表層水温の上昇が見込まれます。
- ・ホタテガイ生産者は今後の飼育水温の上昇に厳重に警戒してください（3枚目に追記有り）。

【水温の鉛直分布】

噴火湾内の深度5mの水温は20～25℃でした（図1）。噴火湾周辺の深度10～40mの水温は平年並※～やや低い値でした。

※7月下旬～8月上旬の調査は2019年以降に実施しているため平年値は2019年以降の平均としています。

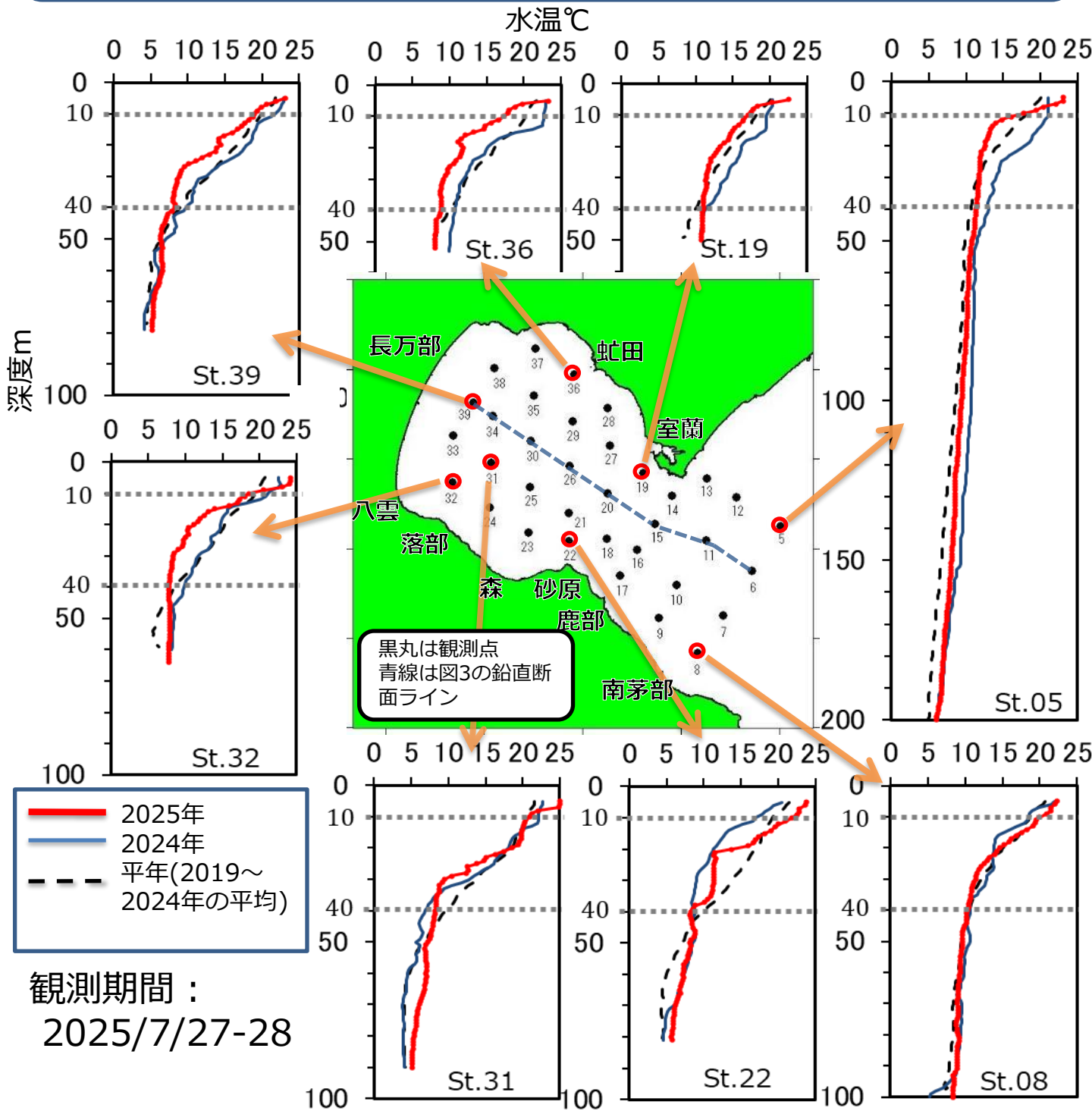


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水温、塩分の水平分布】

噴火湾内深度10mの水温はおおむね18℃以上で、渡島側の沿岸で24℃台と高くなっていました（図2A）。深度10mの塩分は湾中央部で低く32.2以下ですが、湾外では33以上となっています（図2B）。

深度20mの水温は湾内の中央部で18℃以上、沿岸では11～17℃台となっていました（図2C）。深度20mの塩分は湾内で33前後、湾外から湾口部にかけて33.6以上となっていました（図2D）。

【溶存酸素の分布】

海底上5mの溶存酸素量は1.3～5.9ml/Lで、噴火湾内の渡島側で低くなっていました（図2E）。

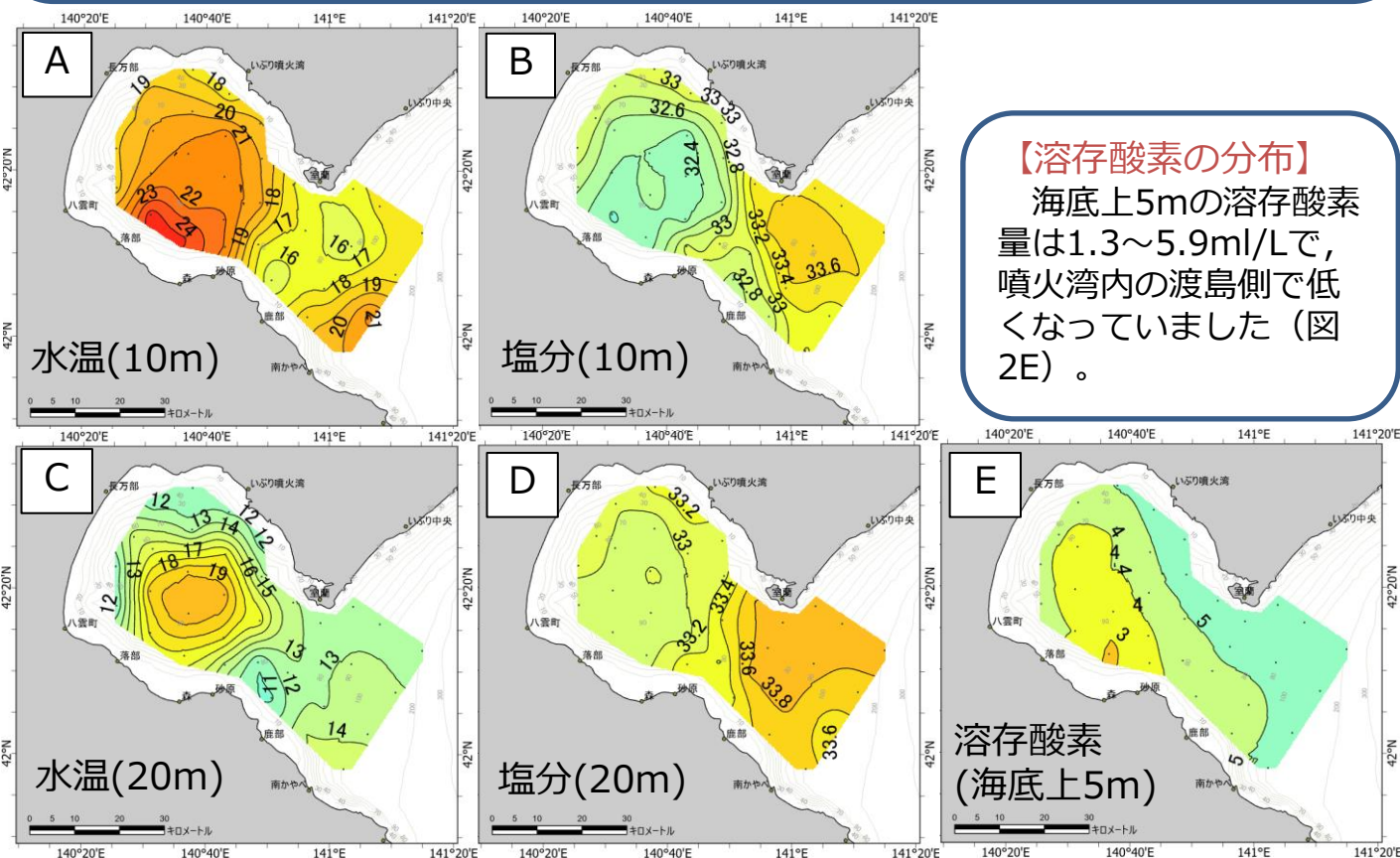


図2 A:水温(10m), B:塩分(10m), C:水温(20m), D:塩分(20m), E:溶存酸素の分布 (海底上5m)

【水温、塩分の鉛直断面分布】

噴火湾内表層は水温20℃以上となっています。湾内の10m以浅には引き続き夏季噴火湾表層水※（水温18℃以上、塩分32.0以下）が分布していました。暖流系水（水温6℃以上、塩分33.6以上）は湾外から湾口部の深度10m以深に分布しています（図3）。
※河川水の流入と大気からの加熱により高温低塩分化した表層の水塊

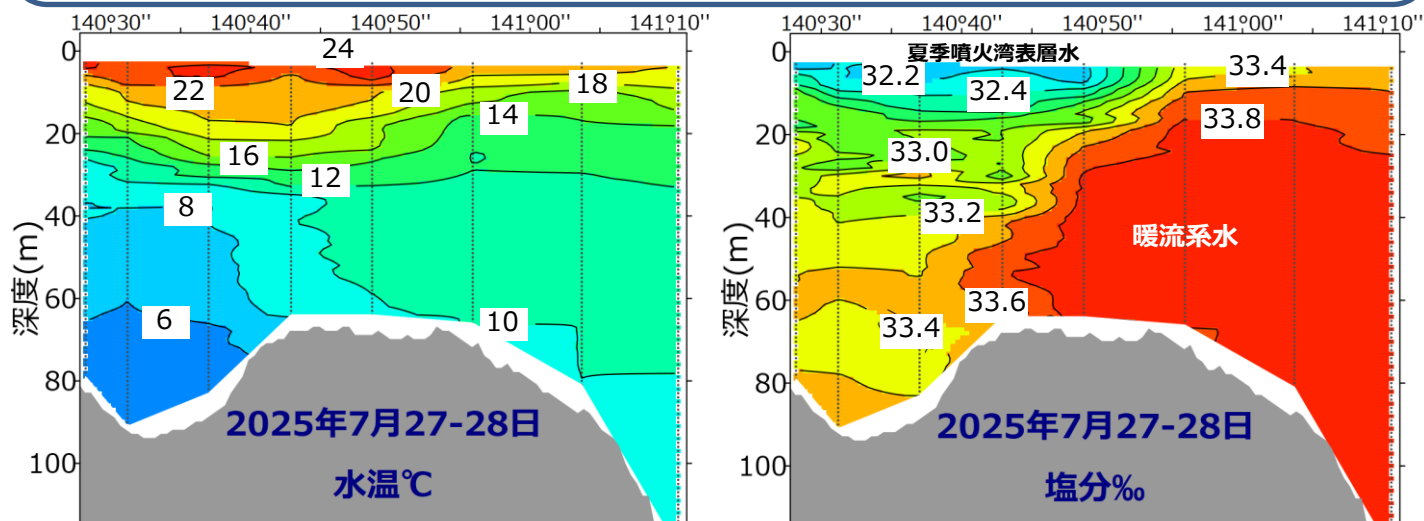


図3 水温・塩分の鉛直断面図（図中破線は観測点）
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照

【今後の養殖海域における水温について】

大気温・表面水温ともすでに高く（図4），今後も気温が高く海が強く温められると予想されるため（図5），ホタテガイ養殖深度において**8～9月に昨年・一昨年に匹敵する高水温が発生**する可能性があります。

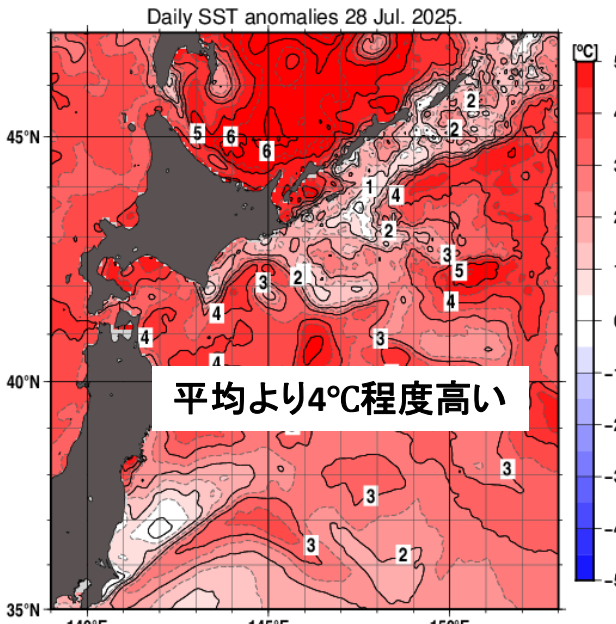


図4 7/28時点の太平洋沖の海面水温の平年差（気象庁HPより引用，一部改変）

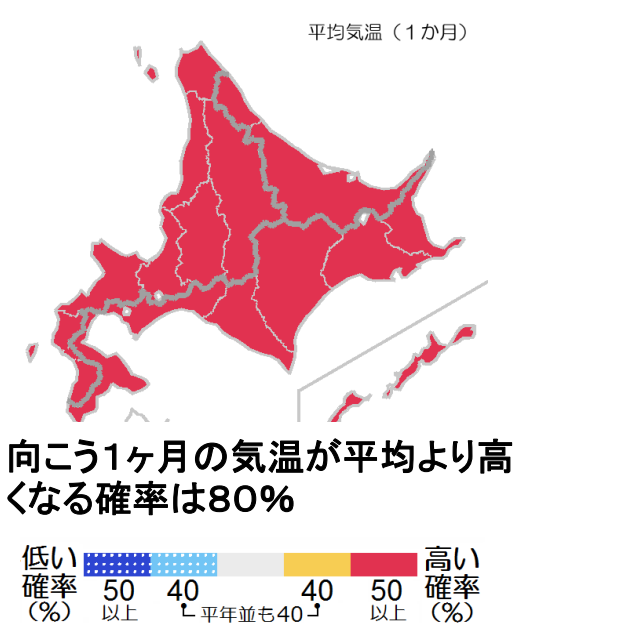


図5 向こう1ヶ月（7/26～8/25）の平均の見通し（気象庁HPより引用，一部改変）

【ホタテガイ稚貝への影響】

- 養殖深度における水温が**24℃を超える日数が多くなると，稚貝の成長速度が低下するとともに，生残率が低下**すると考えられます（表1）。
- 夏季の稚貝の養殖籠の**垂下深度を下げる**ことで生残率が高まる可能性があります（図6）。

表1 同一海域で飼育した稚貝の9月における生残・成長と8～9月の経験水温の関係

	2021	2022	2023	2024
24℃を超えた日数	0	0	19	30
稚貝生残率	98%	92%	80%	13%
稚貝サイズ	20mm	20mm	16mm	9mm

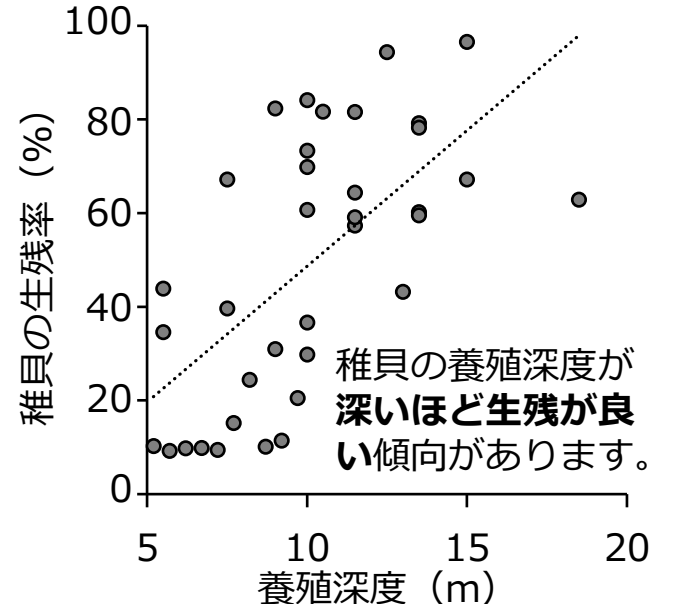


図6 高水温発生時の9～10月の稚貝の生残率と稚貝の養殖深度の関係